

見る・読む・知る

# 歌舞伎と劇場

110th R

立命館創始一四〇年・学園創立一一〇周年記念



2010年12月1日(水)～21日(火)

立命館大学アート・リサーチセンター1階閲覧室

9時30分～17時(土日休室)

入場無料

ギャラリートーク 16時(約30分)

2010年12月3日(金)

12月20日(月)

「主催」文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)／立命館大学アート・リサーチセンター  
「企画」文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)／立命館大学日本文化研究班・赤間研究室(担当:倉橋、加茂)



見る・読む・知る

# 歌舞伎と劇場

2010年12月1日(水)～21日(火) ※土日休室  
立命館大学アート・リサーチセンター 1階閲覧室

ギャラリートーク

2010年12月3日(金)・12月20日(月)  
16時～(約30分)

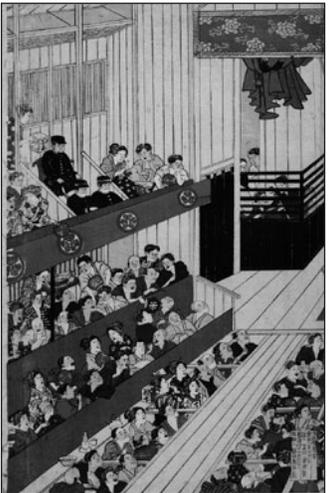


『御狂言楽屋本説』より (アート・リサーチセンター蔵)

三代目豊国画「義経千本桜」右から「すし屋のおさと」、「いがみの権太」、「梶原景時」 (アート・リサーチセンター蔵)

江戸時代は人々の生活に芸能が深く浸透していた芸能文化全盛の時代です。その中でも歌舞伎は、庶民の娯楽として特に親しまれていました。人々の興味は上演される芝居だけでなく、楽屋での役者の様子や劇場の舞台機構などへも向けられました。こうした人々の要求に応えるため、「歌舞伎」は上演時に制作されるパンフレットだけでなく、浮世絵や本といったものからおもちゃなど様々なジャンルで扱われ、大人から子供まで幅広い層の人々が歌舞伎文化を色々な形で楽しんでいました。

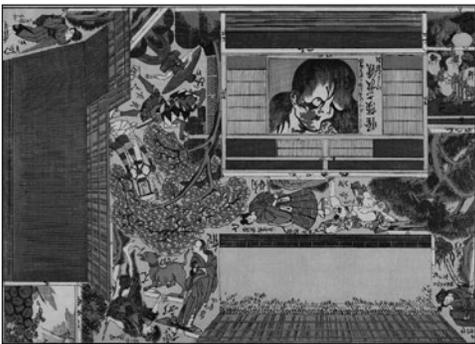
立命館大学アート・リサーチセンターでは、伝統芸能を代表とする無形文化財の研究を主要なテーマとし、特に京都が発祥の地である「歌舞伎」資料の蒐集に力を入れていきます。今回開催する展覧会「読む・見る・知る 歌舞伎と劇場」では、これまでに集積してきた資料を展覧しながら、現代人の想像を超えた歌舞伎文化の魅力を紹介いたします。



周重画「久松座新舞台築築図」 (アート・リサーチセンター蔵)



『於染久松色説販』より (アート・リサーチセンター蔵)



貞信画「四ツ谷怪談」 (アート・リサーチセンター蔵)

「主催」文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティズ拠点」(立命館大学) / 立命館大学アート・リサーチセンター  
「企画」文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティズ拠点」(立命館大学) 日本文化研究班・赤間研究室(担当:倉橋 加茂)  
「問合せ先」立命館大学人文社会リサーチオフィス内  
アート・リサーチセンター事務局  
〒603・8577 京都市北区等持院北町56・1  
TEL 075・465・8476 (平日9時～17時30分)  
E-mail: arc-jimu@arcritsumei.ac.jp  
http://www.arcritsumei.ac.jp/

